特集 新JICA発足10年

Messages from JICAオフィシャルサポーター

JICAのイベントや開発途上国での活動視察などに参加し、国際協力の現場を見て、聞いて、国内外に広く伝えるオフィシャルサポーター。10年に寄せてメッセージが届いた。

2018年、コロンビアで障害者スポーツを応援。その後、日本・コロンビア・カンボジアによる3国間協力の対人地雷撤去プロジェクトを視察した。

2008年に新JICAが発足したとき、それぞれの機関の方々が専門知識を持ち寄って、スピード感のある支援が始まると聞いたことを覚えています。最初はスムーズにいかないこともあったと思いますが、「途上国をよくしたい」という熱意と、10年の間に培われたチーム力はとても頼もしいと感じています。

私は04年にオフィシャルサポーターに就任して以来、19か国を訪問しました。カンボジアではJICAの協力のもとサッカー教室を開催してきましたが、以前に比べてサッカー会場に多くの観客が詰めかけるようになりました。これはサッカーが周知されたこと以外に、カンボジアの経済が動き、人々の生活が向上していることの現れでもあります。

FIFAワールドカップ・南アフリカ大会期間中に訪れたカメルーンでは、JICAとソニーが協力しパブリックビューイングを行いました。子どもたちは大画面に映る臨場感いっぱいのサッカーを見るとともに最新テクノロジーを目のあたりにして、「うれしさ」「驚き」「感動」を覚えたことでしょう。サッカー選手になるという夢だけでなく、技術者になろうと思った子もいたはずです。何かを感じることで、その先の世界は間違いなく変わる——私はサッカーを通じて、その入り口を作る活動をJICAとともに続けられていることに感謝しています。

from 北澤 豪さん

きたざわ・つよし
サッカー元日本代表。日本サッカー協会理事兼フットサル・ビーチサッカー委員長、日本障がい者サッカー連盟会長。2004年ザンビア、05年シリア、06年南米（パラグアイ・エクアドル）、06年パレスチナ、07年ヨルダン・パレスチナ、08年インドネシア、09年バングラデシュ・アフリカ（南アフリカ・セネガル）、10年カメルーン、11年フィリピン、12年カンボジア・ラオス、13年東ティモール・ブラジル、14年メキシコ、15年カンボジア、17年ミャンマー、18年コロンビアを訪問。

新JICA発足10年、おめでとうございます。2011年にオフィシャルサポーターに就任して以来、これまでに11か国を訪問し、事業を視察してきました。JICAの支援はインフラ整備などのハード面だけでなく、シニア海外ボランティア、青年海外協力隊、専門家、JICA職員の皆さんが協力して、人道・教育・技術支援などソフト面においても多大なる功績を残してきたと感じています。世界のさまざまな場所で多くの青年海外協力隊員にお会いしてきました。

ケニアの山村地域で教育支援を行っていた女性隊員は、1週間に1度しか運ばれてこない水をバケツに汲み、調理、洗髪をこなし、同様の生活を送っている現地の人たちに受け入れられ、尊敬を集めていました。これは私が視察したすべての国での活動に共通していたことだと思います。何かを「してあげる」というスタンスではなく、現地の人たちと同じ目線で、ともに協力して物事を進め、おたがいに助け合いともに成長する、そして現地の人たちと感動を共有する——そんなヒーロー、ヒロインが今日も世界の開発途上国で活躍していることを思うと、同じ日本人として誇らしくてなりません。

私はひとりの日本人として、スポーツを通じ、開発途上国の人たちと多くのことに共感しながら、これからも活動を続けていきたいと考えています。国際交流から国際協力へとつながればうれしく思います。

from 高橋尚子さん

たかはし・なおこ
スポーツキャスター、マラソン解説者。女子マラソン界のトップランナーとして活躍し、2000年シドニー五輪で金メダルに輝く。同年、国民栄誉賞受賞。11年JICAオフィシャルサポーターに就任。以来、12年ミャンマー、13年エルサルバドル・ニカラグア、14年インドネシア・フィリピン、15年ベトナム・モルディブ・マラウイ、16年ラオス、17年ブータン、18年ベトナムを訪れる。

2007年、モンゴルでエネルギーや教育、ごみ処理などの事業現場を視察し、さらに子どもたちにキッズテニスのレッスンを行った。子どもたちにとっては初めてのテニス。

2002年にオフィシャルサポーターに就任し、16年が経ちました。数多くの現場を視察させていただきましたが、特に、苦労をしながら活動する青年海外協力隊員の姿が記憶に残っています。実際に現地の人たちと向き合う隊員たちに話を聞くことで、その国が本当に求めていることを理解することができました。

私自身、開発途上国でキッズテニスを開催してきました。どこの国でもテニスコートを駆け回る子どもたちの笑顔は、まぶしいくらいに輝いていました。子どもたちにとってスポーツは、将来に良い影響を与えることができる意味のある経験だと思っています。ただ同時に、子どもたちがこの経験を繰り返し積むことが難しいという現実に、心が痛む思いもしました。

日本政府、JICA、NGO、企業などがいろいろな形で国際協力を行なっていますが、まだまだ一般の認知度が低いように思います。経済的支援だけではなく、技術支援やボランティア活動などを想像以上に多くの国で行っていることを、もっと広く知ってもらうべきではないかと思います。一方、さまざまな場面で、JICAや国際協力に興味を持っているという、海外に住む日本人やスポーツに携わる人、これから社会に出る若者などに出会います。現役選手時代はなかなか活動に協力することはできませんでしたが、今後は私も国際協力への新たな取り組みを考えていきたいと思っています。

from 伊達公子さん

だて・きみこ
テニスプレーヤー。高校3年時、インターハイで3冠を達成し、卒業後、プロに転向。世界ランキング4位を記録。1996年に引退。11年半のブランクを経て2008年より「新たなる挑戦」を開始。17年に2度目の引退。02年ベトナム、03年バングラデシュ、04年マラウイ・ジャマイカ・ホンジュラス、05年モロッコ、06年マレーシア、07年モンゴルを訪問。JICA主催のイベント、シンポジウム、パネルディスカッションなどに多数参加する。

2018年、国交樹立45周年を迎えたベトナムを訪問。ベトナム戦争時の枯葉剤の被害者が通う障害者施設を訪れ、ボール運びリレーやダンスに取り組んだ。